

防水専門業の巧みな技術で施工

## 株式会社 常栄技巧（じょうえいぎこう）

屋上やベランダなどで水を漏らさないために、建築の仕上げに行われる防水工事の専門会社。防水をする面の素材や下地の状態を見極め、たくさんの種類の中から適切な方法で施工する。社名は「常に栄える」という意味で命名。代表取締役の柳原博文さんは、「営業はほとんどしません。巧みな技術でいい仕事をするのが次の仕事につながります。防水と言われるものだったら何でもやる自信はあります」と話す。



代表取締役 柳原 博文さん(43)

### 常に栄える巧みな技術を持つ会社

——創業の経緯を教えてくださいませんか？

高校卒業後、大手電気店に就職してから、富山市の大手防水業の会社に転職しました。そこでは現場・営業・管理をするという総合的な仕事をさせてもらっていたので、1人でやってみたいなと思ったんです。小さい頃から漠然と社長というものに憧れもあり、4～5年勤めてから25歳の時に独立しました。富山市出身ですが、奥さんの実家のある上市町で会社を作りました。工務店さんやハウスメーカーさんの仕事をやらせてもらうことが多いです。実際は事務所はなくても仕事ができますが、事務所があることでメーカーさんや材料屋さんからも安心感を持たれるため、建てました。



飯坂新交差点からすぐの場所にある

——25歳での独立とは、思い切りが良いですね。

あまり深くは考えず、自分の中にある目標を元に、自分にプレッシャーをかけながら進んでいくタイプです。最初から法人になる覚悟で、株式会社にしよと想着て看板の上のスペースを空けていました。「常栄技巧」は、「常に栄える」という希望を込めた名前です。僕らは技術屋さんなので、ものを売るわけではなく、「巧みな技術」で仕事をするのが大切です。「仕事をください」という営業はほとんどしません。現場の仕事が営業となり、次の仕事を発注してもらえます。



社内で仕事中の柳原さん

——営業しなくても、仕事の完成度がもう営業になっているんですね。

そうです。逆に言えば、いい仕事をしないと次は来ないということです。18年間、周りの助けがあってやってこれたと思っています。

### 水を100%漏らさないのが防水

——防水業とはどんなことをされるんですか？

防水業は建築の仕上げの部分。全体に対してほんの少しの部分かもしれませんが、水を100%漏らさないために重要なことです。学校や病院などの平たい屋上や民家のベランダ、橋などにもコンクリートの上

に防水工事が行われています。橋はその上にアスファルトの舗装がしてあります。防水は種類も多く、塗膜（塗料状のウレタンゴムを塗って防水層を形成する）やシートなど、用途に合わせた仕事になります。メーカーさんからの信用がないとなかなか代理店にはなれないのですが、塩ビニール防水の老舗・ロンシール工業の代理店として、外断熱に対応した材料を取り扱っています。県内では4社のみの取り扱いです。防水と言われるものだったら何でもやる自信はありますよ。

—何でもと言うと…？

どういふことにでも対応します。間違いなく雨漏りを止められます。これまで、立山黒部アルペンルートの大観峰駅やカルデラ砂防博物館、県営住宅、丸山総合公園 野球場の観覧席に富山市総合体育館の観覧席、若杉愛児保育園や音杉保育園の屋上全面の防水工事などを施工しました。ほかに、ビル型の家の防水や塗装も行うほか、民家で雨漏りしたという電話がかかってくることもあります。

—防水に関するいろんな場所に対応されるんですね。

はい。防水をする面の素材や状態によってやり方は違います。重要なのは、下地がどういふものか見極めること。表面の塗装がめくれるかもしれない、など、イメージができないと見積もりも書けません。ただの「防水」は誰でもできるけれど、いろんな屋上があつていろんなケースがあり、行くところによって毎回違うんです。仕事するにあたっては自然が相手。雨や風、気温など天候に左右され、雨が降るとできないことが多いため、天気を考慮して仕事の段取りをすることが大切です。その分、仕上がった時の達成感は相当なものですよ。ロゴマークは雨、風、波紋を合わせたもので、波紋には会社の繁栄や人と人とのつながりをイメージしています。

—仕事をされていて楽しいのはどんなことですか？

思ったより仕事が進んだ時です。機械は使いますが、ほぼ手作業です。1つずつ積み重ねて出来上がっていく。手を抜けば雨漏りしてしまいます。防水は10年間の保証期間がありますが、10年経ったからって毎年するものじゃないんです。15~20年でやり変えられる人もいますし、全くやらない人もいます。建物全体を長持ちさせるためには、しっかりした防水工事をすることが欠かせません。



雨、風、波紋を合わせたロゴマーク



仕事はほぼ手作業で行う

## チームワークのある職人集団

—従業員の方をどのように育てておられますか？

「親しい仲にも礼儀あり」と考え、叱る前には必ずねぎらいの言葉を伝えます。大事なのは掃除ですね。専門用語で「ケレン（塗装する前の下準備として塗装する場所の表面を清掃し、塗装をはがれにくくする重要な作業）」と言います。自分がまずやってみてから従業員にやらせて感覚を見る、その繰り返しです。従業員にいつも伝えているのが、お客さんの家に入るこ



従業員のみなさん。中央が柳原社長

ともあるので「道徳的なところはしっかり守るように」ということです。職人さんはどうしても汚れてしまうんですが、お客さんの家に入る時や見積もりの時などは汚さないよう身だしなみを整え、小ざれいにしていきます。「コンビニのトイレに入ってもちゃんと綺麗にして来なさい。ちょっとしたことで人は見ているよ」と言っています。建築関係は人生のどこかでつまづいた人もいますが、挨拶とか人間としてできて当たり前のことを当たり前にできるよう、一緒に成長したいですね。

——大事なことですね。求人もされているんですか？

はい。やる気があって元気な人、自分の行動に責任を持てる人を求めています。あとは正直な人。やっていないのに「やりました」とか、仕事の嘘は絶対ダメです。資格はなくてもOKで、施工管理技士2級の資格取得の支援もします。車の免許があればいいですね。今うちにいる職人さんはみんな防水業初心者の状態から入りました。それでも、僕が今までやってきたことを見せるようにしたことで、徐々に任せられる人間に育ってきていま



資格取得に向けて練習する様子

す。1人でも仕事はできますが、楽しくない。僕を超えて現場の仕事ができるようになれば、県内でも負けないチームが出来上がると思います。

うちは進化している最中です。新人も前からいる人も、少人数だからチームワークがある職人集団です。資格取得は1年に1回しかチャンスがなく、技術は身に付くまで何年もかかります。今までは僕の仕事で信頼を積み重ね、会社でやった仕事は必ず自分自身でチェックしてきました。お客さんからは「あそこの会社に任せれば何とかしてくれる」と思ってもらえています。学生時代や若い時に頑張った経験は自信になり、頑張ることは無限大に広がります。仕事は必ずついて回るものととらえて人生を楽しみながら、本人と会社の発展のために頑張ってもらいたいです。

——「人生を楽しみながら」っていいですね。では最後に、今後の展望をお聞かせください。

人とのつながりは非常に大事です。職人の技術だけがあっても長続きしません。会社組織として新しい情報を仕入れ、次のステージへ進まなければなりません。うちは県内でも全ての防水に対応できる5本の指に入っていると自負しています。この先、「防水と言ったら常栄技巧」だと思ってもらえるようになりたいし、何年後に従業員を何人にするとか会社をビルにするとか、計画しています。僕が現場に出たり管理したりしているところから、お客さんやメーカーさんとの付き合いを深くするよう移行していき、今いる従業員が次に入ってくる新しい人を育てていってくれる体制を作っていきたいです。

また、うちの従業員だけじゃなく、今の20代・30代の若い人に頑張ってもらいたいと考えています。自分で防水業の事務所を建てて営業している若い人はいないので、僕たち40代が頑張れる姿を見せて「あの人みたいになりたいな」と思ってもらえれば、次世代で活躍する人が現れ、活性化していくと思います。若い子達は失敗してもいい。やる気・元気さえあれば頑張れると思いますよ。

——若い方への応援メッセージですね。柳原さん、今日はどうもありがとうございました。

こちらこそ、ありがとうございました。